

問 村営バス事業を実施しない理由は

答 利用者の確保、赤字負担が課題



加藤亮輔議員

【白馬村地域公共交通について】

問 保育園児、小、中、高校生を送迎の現況は。

村長 小中学生については、粘り強い精神、身体育成と危険個所を知る等から、徒歩や自転車などで通学。園児は、保護者と園の対話の必要から保護者が行うことにしています。

問 3市村の村民バス運行を比べると、利用者は、

大町市が年間9万人、小谷村7万4千人、小川村1万4千人。運行委託料は大町市8588万円、小谷村6500万円、小川村3400万円だが、各地とも7〜8割の交付税措置があり自治体負担は少ない。村のデマンド乗り合いタクシーに、親の介

護に訪れる村外者は乗車できないが、その理由は。

健康福祉課長 高齢者対象の運行手段のためです。

問 交通政策が遅れている原因は、縦割り行政の悪い

典型だ。デマンドタクシー、保育園バスは健康福祉課。ナイトシャトル、花三昧バスは観光課。遠距離通学児童生徒は教育課。村営バスの運行などを議題にする白馬村地域公共交通会議の運営は総務課とバラバラで対応。庁内に村内移動手段を確立するための組織を創るべきと考えるが。

村長 縦割り運営はしていません。最善を尽くしてやっています。提案を貴重な意見として、問題点があれば、検討していきます。

【介護保険について】

問 要支援1、2のサービスのうち、予防訪問介護、予防通所介護が村の事業に移行するが、利用料金の変更は。

村長 訪問型サービスを週1回利用した時の個人負担額は月1168円が950円に、通所型サービスを週1回利用した時の個人負担額は月1647円が1500円になる予定です。

問 改定に伴い、村に合った多様なサービス内容は。

村長 「健茶会」という体操中心の活動。シルバー人材センター、ファミリースポーツセンターによる作業や家事援助。健学塾の講座。村の介護予防講座などがあります。

【三日市場神明社の文化財修復補助について】

問 地震で破損した、国の重要文化財に玉垣部分も指定されているのか。

村長 指定されていません。

問 玉垣部分の工事費は村文化財保存整備費等補助金交付要綱に基づき処理か。

村長 修復は村文化財保存整備費等補助金交付要綱ではなく、村文化財等災害復旧費補助金交付要綱により算出しました。

問 村文化財等災害復旧費補助金交付要綱の作成日は。

教育課長 平成26年11月30日です。

問 工事の経過は、26年11月22日地震発生。

27年に本殿工事を始め、秋に終了。その時、覆屋と拝殿に40cmのずれを見つけ、拝殿の移動工事を行う。玉垣工事が12月の補正で決まり、28年度に実施。なぜ玉垣部分だけ補正になったのか。

教育課長 当初の国庫補助のところで玉垣の部分が漏れ、翌年度の補助金交付申請が締め切られていました。また、要綱は28年3月までしか出せない事情もあり、補正を行いました。

比較すれば知恵と工夫で白馬村でも運行できる！

自治体運営公共バス比較

	大町市	小谷村	白馬村	小川村	木曽町
人口	29,559人	3,174人	9,222人	2,915人	12,307人
運行目的	通学+買い物・通院+観光客			通学+買い物・通院	通学+買い物・通院+観光客
路線数	10コース、循環型2コース	5コース		3コース、循環型1コース	幹線5コース、巡回3コース、スクール混合5コース、定期便タクシー2コース
便数	4〜7便	4〜9便		2〜4便。日曜日運休	4〜11便
村民乗車料金	子供100円、大人200円	18歳まで無料、大人200円、65歳以上100円		小・中学生無料、大人100円、	小・中学生無料、高校生以上100〜200円
乗客数	27年度 9万人(年)	27年度 74,500人	-	27年度 14,104人	平成26年度19万6610人
委託料	8588万円、4社	6500万円、2社	-	3400万円、1社	運行費1億7500万円
乗車収入	1,200〜1,300万円		-	170万円	2427万円
バスの所有	委託先	委託先	-	村所有(マイクロバス2台、15人乗り2台、乗用車1台)	委託先
国からの補助金	特別交付税措置が有る(金額は特定できない)	特別交付税 有る(70〜80%位、)	-	特別交付税、過疎対策バス債(車購入時)	特別交付税1億3000万円町の負担額 1,700万円

村長 理解はできますが、非常に難しいです。

問 村内の神社も14カ所被災。小さな集落はどうしようか悩んでいる。指定されていない集落の拠り所を、全村一体で維持するシステムを考えるべきでは。